

フローリング メンテナンス方法

日常のメンテナンス

- 柔らかな布で拭きしてください。ウレタン系塗装品(UVナチュラルコート塗装品を除く)や水性ラッカー塗装品は、かたく絞った布でのお手入れも可能です。水拭きは、フローリングの毛羽立ち、変色、反り・曲がりなどの原因となるため避けてください。
- フローリングに水分が付着した場合は、すぐから拭きしてください。放置するとシミになります。
- 化学モップは、水拭きの場合と同様の不具合を引き起こすことがありますのでご注意ください。
- 汚れなどがひどい場合は、それぞれの塗料メーカーが推奨するクリーナーを使用するか、下記の方法で対処してください。

オイル塗装品	サンドペーパーで軽く削って汚れなどを取り除いてから、その部分に再び塗装をしてください。
ウレタン系塗装品	中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使い、かたく絞った布で拭いてください。(UVナチュラルコート塗装品は柔らかな布で拭きしてください。)
水性ラッカー塗装品	油性ペンなどによる汚れは、消しゴムで消すか布にベンジンをつけ手早く拭いてください。汚れが落ちたら柔らかな布で拭きしてください。
無塗装品	サンドペーパーで軽く削って汚れなどを取り除いてください。

特に汚れなどがひどい場合は、下記の専門業者にお問い合わせください。

(株)バーンリペア
 東日本受注センター TEL:(03)5227-1301
 西日本受注センター TEL:(06)6990-1361
<http://www.burn-repair.co.jp>

定期的なメンテナンス

- ご入居後、定期的に再塗装またはワックスがけのいずれかを継続しておこなうことにより、フローリングの表面を保護しより長持ちさせることができます。必要に応じ、再塗装またはワックスがけをおこなってください。(ご使用状況などにより異なりますが、約1年ごとが目安です。)
- 原則として、再塗装とワックスがけを交互におこなうことはできません。初回メンテナンス時に選択したいいずれかの方法(再塗装またはワックスがけ)を定期的におこなってください。
- 再塗装にはフローリングに塗装されているものと同じ塗料を使用してください。
- ワックスがけをするとフローリングに光沢が出ますのでご注意ください。
- 再塗装またはワックスがけの際は、ちり、ほこりをきれいに取り除いた上で、適切な塗料やワックス(下表を参照)を薄くムラなく塗ってください。適切でない塗料やワックスを使用したり多量にまき散らして使用すると、フローリングの品質を著しく損なうことがありますので、絶対にしてしないでください。

(推奨塗料・推奨ワックス)

フローリング種別	推奨塗料とお問い合わせ先(再塗装を選択する場合)	推奨ワックスとお問い合わせ先(ワックスがけを選択する場合)
エコプレーゼ (LIVOSオイル塗装品)	商品に塗装されているものと同じLIVOSオイル塗料 ※ (株)イクダコーポレーション 東京 TEL:(03)3544-4453 FAX:(03)3544-4450 大阪 TEL:(06)6452-9377 FAX:(06)6452-9378	「グラノス」 (株)イクダコーポレーション 東京 TEL:(03)3544-4453 FAX:(03)3544-4450 大阪 TEL:(06)6452-9377 FAX:(06)6452-9378
OSMOオイル塗装品	商品に塗装されているものと同じOSMOオイル塗料 ※ オスモ&エーデル(株) TEL:(0794)72-2001 FAX:(0794)72-2000	「オスモ ワックスアンドクリーナー」 オスモ&エーデル(株) TEL:(0794)72-2001 FAX:(0794)72-2000
KLUMPPオイル塗装品	「天然植物OILワックス クランプオイル」 旭興易(株) TEL:(052)389-3688 FAX:(052)389-3644	「天然由来の成分だけを使った床ワックス」 (株)リンレイ TEL:(03)3541-5955
春風オイル塗装品	商品に塗装されているものと同じ春風オイル塗料+「701 クリヤー」 サンユーペイント(株) TEL:(06)6392-0151 FAX:(06)6395-1171	「701 クリヤー」 サンユーペイント(株) TEL:(06)6392-0151 FAX:(06)6395-1171
WOCAオイル塗装品	「大和屋インテリアオイル ナチュラル」 大和屋(株) TEL:(048)526-1008	「大和屋インテリアクリーナー」 大和屋(株) TEL:(048)526-1008
その他オイル塗装品	—	「天然由来の成分だけを使った床ワックス」 (株)リンレイ TEL:(03)3541-5955
ウレタン塗装品 UVハードコート塗装品	—	「ノンブライト」(低光沢) 「ハイテクフローリングコート」(高光沢) (株)リンレイ TEL:(03)3541-5955
UVナチュラルコート塗装品	—	「ノンブライト」 (株)リンレイ TEL:(03)3541-5955
Sコート塗装品 Tコート塗装品	—	ワックスがけ不要
ウレタン(Bona社)塗装品 (オーク三層・ブラックチェリー三層・ メープル三層・ケンパス三層)	—	「Bonaポリッシュ」 (株)オカベ TEL:(0763)52-4069 FAX:(0763)52-4038
水性ラッカー塗装品	—	「つやピカ透明クリーナー」 (株)リンレイ TEL:(03)3541-5955
無塗装品	—	「天然由来の成分だけを使った床ワックス」 (株)リンレイ TEL:(03)3541-5955

※は、商品に塗装されている塗料の色番を弊社にご確認いただいでから、上記のお問い合わせ先にご連絡ください。

wood Do?

無垢素材フローリング

施工要領とメンテナンス方法

フローリング 施工要領

※施工前に必ずお読みください。

無垢素材商品のため、空気中や床下からの湿度の影響を受け、木材が有する水分の吸排作用によって膨張・収縮する特性を持っています。施工の際には、下記の施工要領をお守りください。

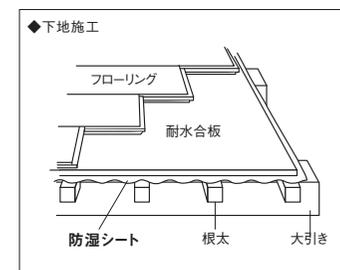
1. 施工前に確認

- 内装用ですので、外装には使用しないでください。
- 床暖房には床暖房対応商品をご使用ください。
ただし、床暖房対応商品でも一定の膨張・収縮は生じます。
- 床下のコンクリートは含水率が10%以下になるまで乾燥させてください。
換気口は十分に設置して、風通しを良くしてください。
床下に湿気がこもると、施工後に反り・曲がり、突き上げ、床鳴りなどが発生する恐れがあります。
- 雨風が吹き込むことのないよう、サッシなど開口部の取り付け後にフローリングを貼ってください。

2. 下地施工

床下と下地合板が湿気を含んでいないことを十分に確認してください。

- 大引きは90mm角以上(根太なし工法の場合は105mm角以上)、根太は45mm角以上の乾燥材を使用し、プレーナーで平滑に仕上げてください。
大引き間隔は1,000mmまたは3尺(910mm)、根太は1尺(303mm)とし、レベル(水平)を出して施工してください。
- 0.1mm以上の防湿シートを合板の下に敷き込んでください。**
- 下地に合板の捨て貼りをしてください。
合板は12mm以上(根太なし工法の場合は24mm以上)の耐水合板を使用してください。
その際、合板の含水率が正常であることを確認してください。また、一度濡れた合板は使用しないでください。



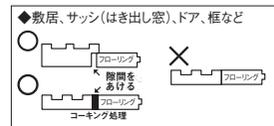
3. 仮並べ

- 開梱した状態で放置し、施工現場の環境に十分なじませてから貼ってください。
ただし、針葉樹フローリング、桐フローリングは、開梱後長時間放置すると反り・曲がり、表面割れなどが発生する恐れがありますのでご注意ください。
三層フローリング、複合フローリングは、開梱後そのまま施工いただけます。
- 無垢素材商品ですので、施工時に一定程度のハネ品が出ます。あらかじめご了承ください。
- 色合いや木柄などが一枚一枚異なります。貼り始める前に仮並べをし、色や柄のバランスをとって全体の品質を確認いただいた上で貼ってください。
極端に色や柄などがおかしいもの、その他商品に関してお気づきの点があれば、必ず貼る前にご相談ください。

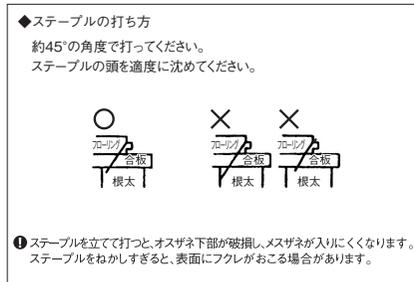
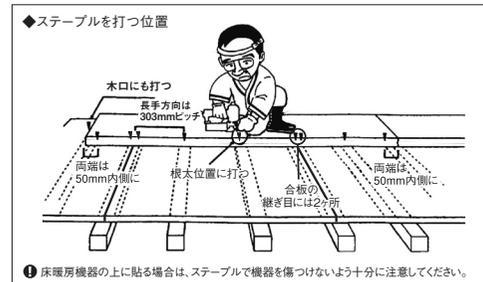
施工後の返品・交換には応じかねます。

4. 貼り込み

- フローリングの接続部分と下地合板の接続部分が重ならないように貼ってください。
- できる限りフローリングと根太が直交するように貼り、長手方向の接続部分は根太上に来るようにしてください。
- 接着剤とフローリング用ステーブルを併用してください。
- 接着剤はF☆☆☆☆認定の1液型ウレタン樹脂系または1液型変成シリコン樹脂系接着剤を使用してください。
(床暖房対応フローリングは、F☆☆☆☆認定の1液型ウレタン樹脂系接着剤を使用してください。)
それ以外の接着剤は床鳴りの原因となるため使用しないでください。
(推奨接着剤)
フローリング：セレクトィUR-20、UR-21、MS-330 または同等品
床暖房対応フローリング：セレクトィUR-21、MS-330 または同等品
- サネやその近接部には接着剤を使用しないでください。
(三層フローリング、複合フローリングの床暖房施工時に限り、エンドマッチのメスザネの下端にも接着剤を塗布してください。)
- 広葉樹フローリング、バンパー(竹)フローリングは、サネを強く叩き込むと、施工後の反り・曲がり、突き上げ、表面割れなどの原因となります。
商品に同梱の「スペーサー」を必ず使用し、フローリングどうしの際間を設けてください。また、壁際は5~10mm程度あけてください。
- 三層フローリング、複合フローリング、幅60mm以下のフローリング、実が斜め形状の床暖房対応フローリング、サーモアッシュは、「スペーサー」を使う必要はありませんが多少緩めに貼り込み、壁際は5~10mm程度あけてください。
- 広いホールなどに施工する場合は、できる限り多く隙間を設けてください。
- 針葉樹フローリング(床暖房対応フローリングを除く)、桐フローリングは、フローリングどうし隙間を設けず貼り込んでください。
また、壁際に隙間を設ける必要はありません。

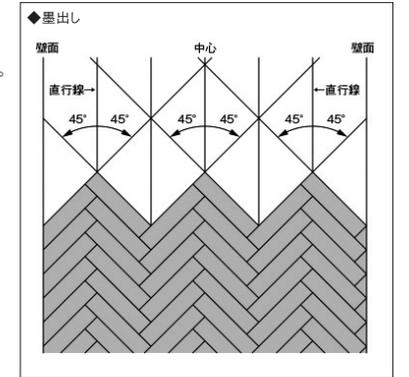


敷居、サッシ(はき出し窓)、ドア、框などへの納めも、必ず隙間を設け、必要に応じてコーキング処理をしてください。



5. 貼り込み (ヘリンボーン)

- ヘリンボーンフローリングは、短手のサネは全てメスザネになっているため、メスザネ同士が突き付けになる部分があります。
気になる場合は、合板などで「雇いザネ」を作り、入れてください。
- ヘリンボーンフローリングは、全体をステーブル釘とウレタン系接着剤の併用で施工してください。
- 貼り込みの際、板の並びはきつく締め付けずに0.5mm程度の隙間を開けて施工してください。
- ヘリンボーンフローリングは、墨出しの際に45°線と直行線の両方を下地につけると施工が便利になります。
- ヘリンボーンフローリングは、壁間の中心から墨出しし、左右の壁面との納まりが均等になるように割りつけるのがオススメです。<図>
- ヘリンボーンフローリングは壁際等で斜めに切断するため、床の広さや形状にもよりますが、床面積より多めに必要になります。
- 壁際は、巾木で隠れる程度の隙間を開けてください。



6. 養生

- 養生前にちり、ほこりをきれいに取り除いてください。
- 養生ボードを隙間なく敷きつめるか、右図の方法で養生をしてください。
養生テープを直接フローリングに貼ると、木地が破損したり、養生テープの接着成分とフローリングの塗料の成分が一体化して塗膜が剥離することがあります。

養生テープを直接フローリングに貼らないでください。

(弱粘性の養生テープも使用しないでください。)

